

# 国語科学習指導案

－授業のユニバーサルデザインの視点で全ての児童に思考する力を付ける－

廿日市市立佐方小学校 奥村 雛

1 日 時 令和4年9月15日 第3校時

2 学 年 第1学年3組 男子12名 女子14名 計26名

3 単元名 のりもののかたちをしらべよう「いろいろなふね」（東京書籍 「あたらしいこくご 一下」）

## 4 単元について

### （1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕

（2）ア「共通，相違，事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること。」及び〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと（1）ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定している。本単元のねらいは、「のりものについて書かれた本や文章などを読み，文章の中の重要な語や文を考えて選び出し，分かったことなどをつかってカードをつくることができる」である。

本教材文は，はじめ・なか・おわりの構成を有していることや，なかで紹介される4つの船の説明が「やくめ」「つくり」「できること」の3観点でまとめられていることから，比較的文章構成が分かりやすく，重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けさせるのに適していると考えられる。

### （2）児童観

本学級の児童は，一学期に「どうやってみをまもるのかな」という説明的な文章において，「問い」と「答え」に着目しながら三つの動物の身の守り方を見付ける学習をした。しかし，本文の重要な語や文を根拠に読み取りをすることが難しく，ある程度の長さがある文章を読んで理解することに課題のある児童もいた。朝読書の時間や毎週の図書の本の貸し出し，教師や読み聞かせボランティアの方による不定期な絵本の読み聞かせなどを行っているが，まだ長い文章に慣れておらず，課題がある児童がいるのが現状である。また，これまでの経験が浅く，本教材「いろいろなふね」に出てくる乗り物を初めて知る児童もいると思われる。

### （3）指導観

指導にあたっては，のりものカードにまとめるために必要な語や文を自分で抜き出しながら様々な本や図鑑を意欲的に読み進めることができるよう，「のりものカードをつくる」という言語活動を設定し，学習の見通しをもたせる。本教材は児童に馴染みのない乗り物が出てくるため，これまでの経験やもっている知識を生かすために，身近な乗り物を例に挙げて，のりものカードを作ることを確認したい。その際，「やくめ」「つくり」「できること」を確認させたり，それら三つの観点のつながりを意識させたりする。ワークシートにも三つの観点でのりものについてまとめていくことで，言語活動の「のりものカード」を作るときにも「やくめ」「つくり」「できること」のつながりで記述させる。

## 5 単元の目標

○事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C (1) ウ

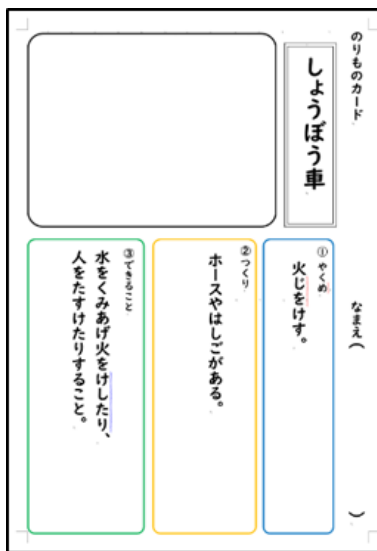
○言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力, 人間性等」

## 6 単元の評価基準

事物の仕組みを説明した文章などを読み, 分かったことや調べたこと のりものカードにまとめる活動を通した指導【言語活動例 C (2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。	・「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	・学習の見通しを持って, 進んで文章の重要な語や文を考えて選び出し, 調べたことを「のりものカード」にまとめようとしている。

### 〈評価の具体及び手立て〉

	評価基準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導と手立て
思考・判断・表現	文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 自分が調べた乗り物について「やくめ」「つくり」「できること」をワークシートにまとめている。	○本や図鑑の文中の「やくめ」には青, 「つくり」には黄色, 「できること」には緑で線を引かせ, 重要な語句を探しやすくさせる。 ○1種類の本だけでなく, 他の本やカードを準備する。 ○広い範囲から抜き出すのが難しい場合は, 狭い範囲の文章を提示し, 調べ方を一緒に確認する。 ○図鑑から一人で乗り物の「やくめ」「つくり」「できること」を選び出すことが難しいと予想される児童にはあらかじめ教師が乗り物についてわかりやすくまとめた文章を提示しておく



7 指導と評価の計画（全13時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価基準・評価方法
一	1	<p>○学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習の見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>のりもののひみつカードをつくって「1年3組のりものずかん」にまとめよう。</p> </div> <p>○並行読書で乗り物の図鑑や絵本を読んでいく。</p>				
二	2	○「客船」「フェリーボート」「漁船」「消防艇」の四つのふねについて書かれているという文章全体の構成を捉える。	○			(知識・技能) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	3	○「客船」について、「やくめ」「つくり」「できること」の三つの観点で内容を整理し、構成を捉える。		○		(思考・判断・表現) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	4	○「フェリーボート」について、「やくめ」「つくり」「できること」の三つの観点で内容を整理し、構成を捉える。				
	5	○「漁船」について、「やくめ」「つくり」「できること」の三つの観点で内容を整理し、構成を捉える。 <b>(本時)</b>				
	6	○「消防艇」について、「やくめ」「つくり」「できること」の三つの観点で内容を整理し、構成を捉える。				
	7	○色々な船の特徴をまとめ、教材文の構成を振り返る。	○			(知識・技能) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。

三	8 5 10  11 12	○本や図鑑を使って，他の乗り物について調べる。  ○調べたことをカードにまとめ，紹介し合う。		○	○	(思考・判断・表現) ・「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (主体的に学習に取り組む態度) ・学習の見通しを持って，進んで文章の重要な語や文を考えて選び出し，調べたことを「のりものカード」にしようとしている。
四	13	○のりものカードを作るためには，どんなことに気を付けたか確かめ，学習を振り返る。				

8 本時の学習（5/13時）

（1）本時の目標

重要な語や文を考えて選び出し、「ぎよせん」の「やくめ」「つくり」「できること」を説明することができる。

（思考力，判断力，表現力等 読むことC（1）ウ）

（2）学習の展開

学習活動	◇指導上の留意点 ●「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価基準と評価方法
1 前時の学習を振り返る。	◇きやくせんやフェリーボートののりものカードを作った時のことを想起し，まとめかたを全員で確認する。	
2 重要な語や文を確認する。	<p>○「やくめ」…どんな仕事をするふねか。 「～のためのふねです。」</p> <p>○「つくり」…大きさ，形，あるもの， ついているもの，しかけ，しくみ</p> <p>○「できること」…「つくり」があるから できること。</p>	
3 本時のめあてをつかむ。	<p>㊦ぎよせんは どのようなふねなのか みつけよう。</p>	
4 のりものカードの作り方を確かめる。	◇「ぎよせん」についてののりものカードにまとめるというゴールを明確にし，ゴールイメージをもって取り組めるよう指示する。	
5 ぎよせんについてカードに整理して書く。	◇「やくめ」は青，「つくり」は黄色，「できること」は緑で色分けをして内容を整理しやすくするようにする。	(思考・判断・表現) ・「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選
6 グループで話し合う。	<p>●話型を示すことでグループの全員が話し合いに参加できるようにする。</p> <p>◇話し合う際は，本文を根拠に話し合えるように助言する。イラストからわかることでもよいが，必ず本文に戻るということを伝える。</p>	び出している。 (発言・カード)

7 全体で話し合う。	◇選んだ理由や、見つけた語や文を共有し、児童同士で考えを交流する。	
8 本時のまとめをする。	㊦ぎよせんは さかなをとるためのふねで そのためにきかいやあみがつまれている。	
9 本時の学習を振り返る。	<p>【振り返りの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の学習でわかったこと。</li> <li>○できるようになったこと。</li> <li>○ともだちといっしょにかんがえておもったこと。</li> </ul>	

### (3) 板書計画

㊦ぎよせんは さかなをとるためのふねで  
そのためにきかいやあみがつまれている。

漁船の絵

群れのイラスト

機械の写真

㊦ぎよせんは、さかなをとるためのふねです。  
このふねは、さかなのむれを みつけるきかいや、あみを つんでみます。  
みつけた さかなを  
あみて とります。

つくり

やくめ

① やくめ  
・なにを する ためのふねでしょう。  
やぐら・じり・と・せんで

② つくり  
・なにが あるのでしょうか。  
・なにを つんで いるのでしょうか。  
かたち・おおきさ・ついでているもの・しんみ・しんかけ

③ できること  
・㊦ぎよせんが あると、どのようになることが  
できるのでしょうか。

㊦ぎよせんは どのような ふねなのか  
みつけよう。

## 9 指導上の工夫

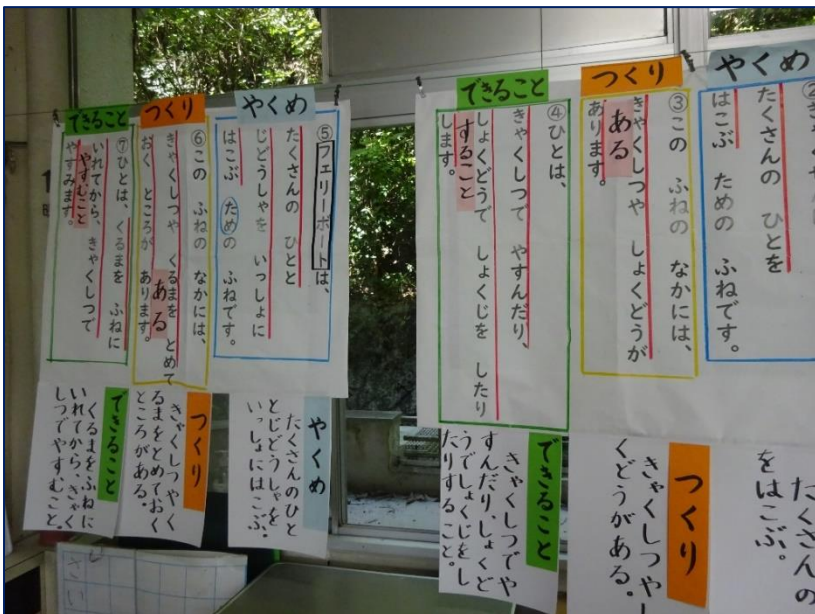
- ・並行読書をした。

### ○並行読書に使用した図書リスト

- 「大きなずかん はたらくじどう車1 人やにもつをはこぶ車」学研
- 「大きなずかん はたらくじどう車2 こうじでやくだつ車」学研
- 「大きなずかん はたらくじどう車3 あんぜんをまもる車」学研
- 「大きなずかん はたらくじどう車4 ぐらしをささえる車」学研
- 「のりものくらべ1 はたらく車」相馬 仁, 偕成社
- 「のりものくらべ2 ぐらしをまもる車」相馬 仁, 偕成社
- 「のりものくらべ3 電車やてつ道」相馬 仁, 偕成社
- 「のりものくらべ4 いろいろな船」相馬 仁, 偕成社
- 「のりものくらべ5 ひこうきやうちゅう船」相馬 仁, 偕成社
- 「はたらく船 大図鑑1 人をはこぶ船」池田良穂, 汐文社
- 「はたらく船 大図鑑2 調査する船」池田良穂, 汐文社
- 「はたらく船 大図鑑3 ものをはこぶ船」池田良穂, 汐文社
- 「のりもの大集合ミニ自動車ベスト88」鎌田達也, 講談社
- 「WONDA超はっけんのりもの大図鑑1はたらく車」小賀野実, ポプラ社
- 「はたらくじどう車くらべ1 バスとトラック」国土社
- 「はたらくじどう車くらべ2 パトカーときゅうきゅう車」国土社
- 「はたらくじどう車くらべ3 しょうぼう車ときゅうきゅう車」国土社
- 「はたらくじどう車くらべ4 ショベルカーとブルドーザー」国土社
- 「はたらくじどう車くらべ5 ゴミしゅうしゅうしゃとたくはい車」国土社
- 「はたらくじどう車くらべ6 いろいろなじどう車」国土社

- ・図鑑や絵本だけでなく、はたらく自動車カードを用いた（くもん出版）
- ・学習の足跡を教室掲示した。
- ・板書や教室掲示、児童が使うワークシートの色分けを統一した。

教室掲示 ・ 図鑑コーナー



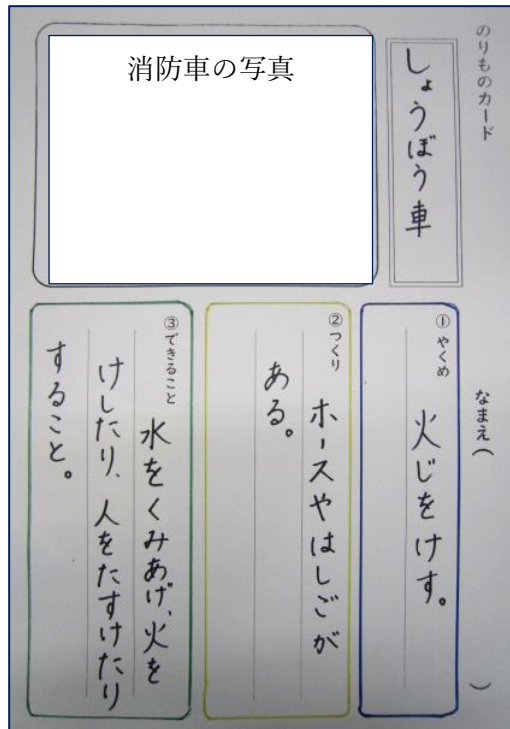
## 10 手立ての具体

### 手立て①

教師が作った乗り物カードを提示した。

→自分たちも乗り物カードをつくりたいという意欲付け

### のりものカード 見本



### 手立て②

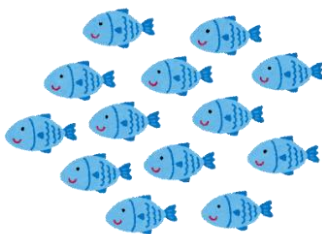
教材に出てこない、いろいろな船の写真を提示した。

→本文への興味

### 手立て③

児童が知らない言葉や分からない言葉を写真や絵で示した。(群れ・機械など)

→語彙を増やす



機械の写真

### 手立て④

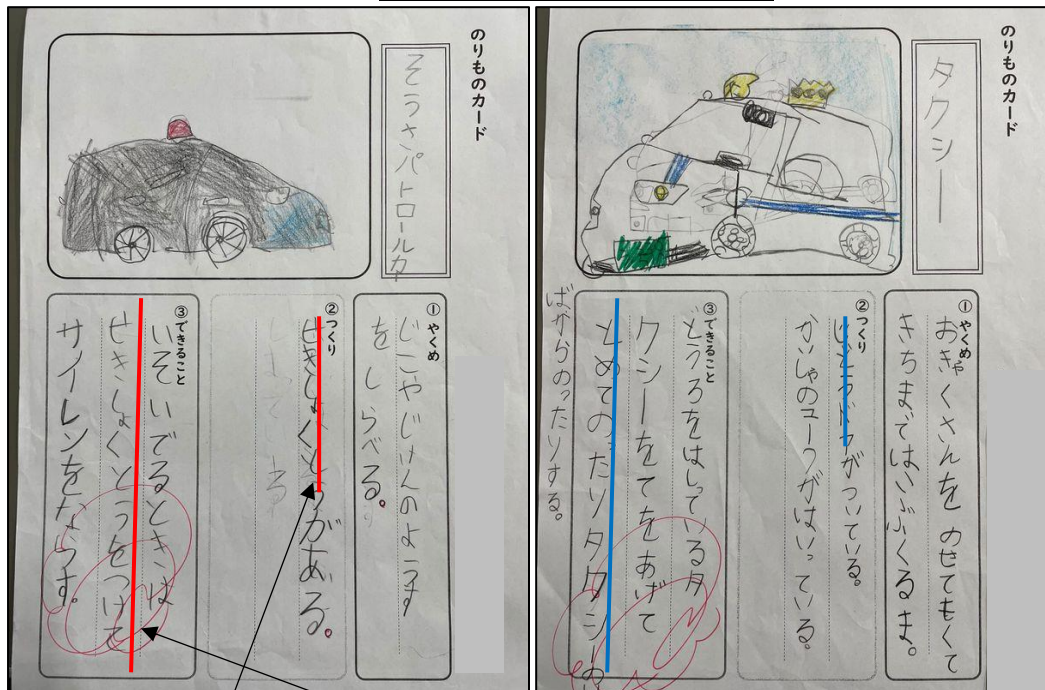
「やくめ」は「〇〇 (ふねの名前) は」、「つくり」は「～のための」、「できること」は「あります (つんでいます)」という言葉を手掛かりに探すと、見付けられるということを全体で確認した。



## 11 評価の実際

26人中Aと評価した児童は4人、Bと評価した児童は19人、Cと評価した児童は3人だった。7割の児童は図鑑の中から重要な語や文を見つけてのりものカードに書くことができた。

B評価児童のワークシート



- ・①の「やくめ」では、どのようなのりものなのかが簡潔に書いてある。
- ・②の「つくり」があるからできることを③の「できること」に書き出し、「つくり」に関係のある「できること」をカードに書いている。
- ・「やくめ」「つくり」「できること」を自分で図鑑の中から探し、正しく抜き出している。

## 12 成果と課題

### (1) 成果

- ・本文を色分けさせて整理したり、児童が知らない言葉や分からない言葉を写真や絵で示したりすることで、事柄の順序など情報と情報の関係に気付けるようになった。(知識・技能)
- ・「○○ (ふねの名前) は」、「～のための」、「あります (つんでいます)」という言葉を手掛かりに探すことで、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができた。(思考・判断・表現)
- ・教師が作った乗り物カードを提示したり、教材に出てこない、いろいろな船の写真を提示したりすることで、学習の見通しを持って、進んで文章の重要な語や文を考えて選び出し、調べたことを「のりものカード」にすることができた。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・読書が苦手な児童も乗り物の絵本だと読みやすく、楽しく読書ができた。

### 〈授業のユニバーサルデザインの観点より〉

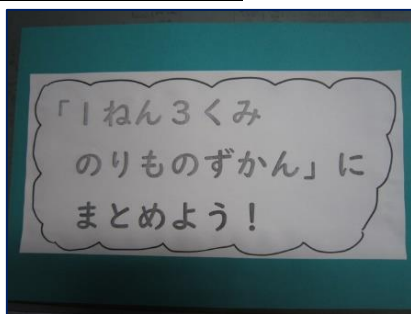
#### ア 焦点化

##### 焦点化のためのポイント

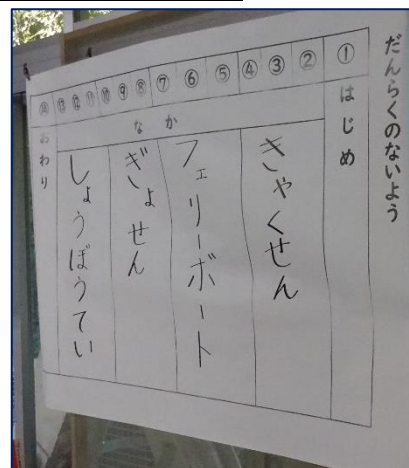


- ①ゴールを提示することで焦点化
- ②学びの足跡→めあてにつなげる
- ③目的を意識させる発問  
「はじめて見た人がわかるようにカードに書こう」
- ④繰り返しパターン化
- ⑤机上整理

#### ① ゴール提示



#### ② 学びの足跡



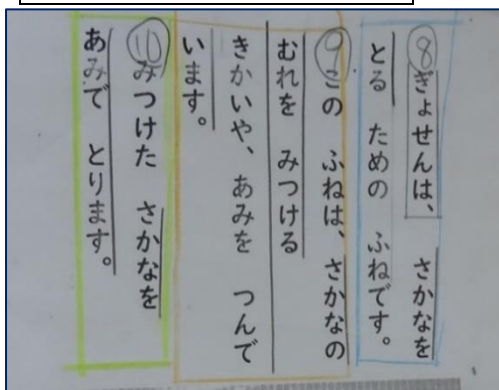
## イ 視覚化

### 視覚化のためのポイント

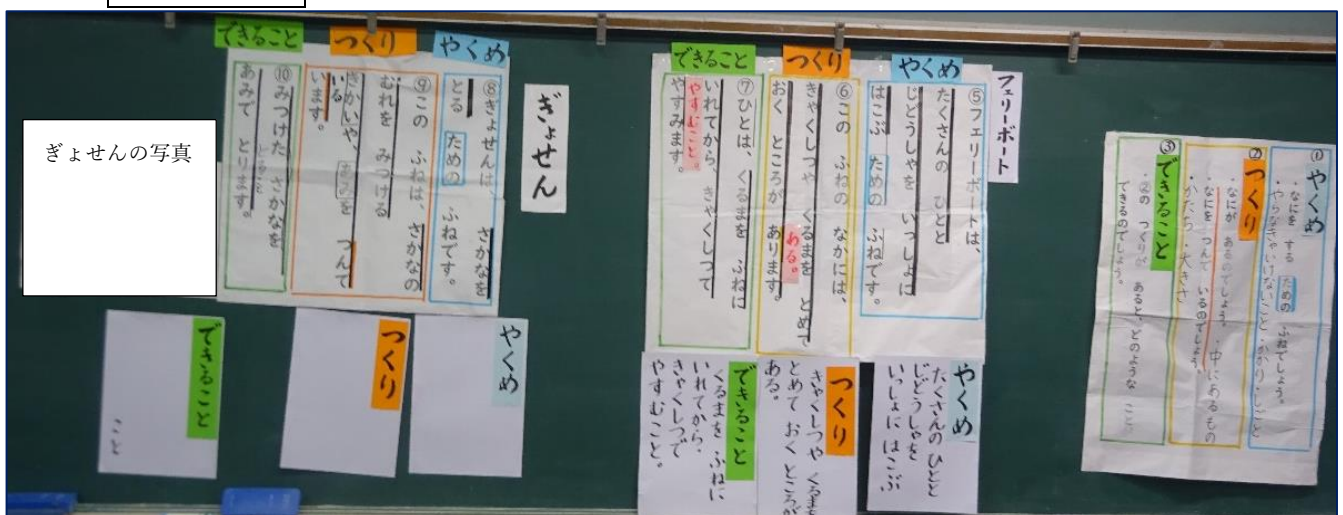


- ①学習の足跡の掲示（掲示物の工夫・掲示位置の工夫）
- ②「やくめ」「つくり」「できること」を色分けして囲む（掲示物、板書、子どもの本文）
- ③線の引き方や色→比較しやすい
- ④言葉の共通理解のための資料（写真や動画）提示

### ② 色分けして囲んだ本文



### ③ 板書



## ウ 共有化

### 共有化のためのポイント



- ①「やくめ」「つくり」「できること」を子どもたちがわかる言葉に置き換える
- ②話型を示す→表現するときの支援となる
- ③比較する→友達の見解とのちがいが分かりやすい
- ④グループでの話し合い

### ② 話 型

#### めざせ！ はなしかた めいじん！！

「わたし(ぼく)は、\_\_\_\_\_と おもいます。」「どうですか。」

「わたし(ぼく)は、\_\_\_\_\_に せんを ひきました。」

「りゆうは、\_\_\_\_\_だからです。」←りゆうが いえたら すごい！

#### めざせ！ ききかた めいじん！！

「わかりました。」 「おなじです。」

「にっています。」 「ちょっと ちがいます。」

(わからなかったら) 「もういっかい いってください。」

## (2) 課題

- ・図鑑や絵本は教材文と違い、様々な場所に乗り物についての情報が書かれているため、重要な語や文を探すのが難しかった。  
→写真や絵の周りに書いてある小さな文字も読むように個別に指導した。
- ・関連のある箇所だけを抜き出せず、長い文章をそのまま写してしまう児童もいた。  
→抜き出した長い文全てが重要なのか問いながら、教師と一緒に重要な語や文のみに絞っていった。
- ・グループ活動をもっと取り入れたかったが、選んだ乗り物のジャンルが違うので交流や教え合いが難しく、カード作りでのグループ活動ができなかった。自分の意見を言うだけや友達の見解を聞くだけなどになってしまった。